NUPRI NEWS
Nagano Urban Policy Research Institute
NPO法人 長野都市経営研究所
NPO法人 長野都市経営研究所
Vol.32
2009.APR.
発行日／2009年4月28日（年4回）
発行／NPO法人 長野都市経営研究所　〒380-0834 長野市大字鶴賀問御所町1289-1 丸本ビル2F　TEL 026-235-7911　FAX 026-235-6166　http://www.nupri.or.jp　E-mail：nupri@nupri.or.jp

NUPRI 全体懇談会

スポーツを核に、長野の元気を応援しよう！

―今、明日、そして2014を見据えて―

平成21年3月26日（木）　午後3時30分～　長野ホテル犀北館 にて

去る3月26日、恒例のNUPRI全体懇談会が開催され、今年度の活動内容について意見を交換し合いました。

懇談会に続き、午後4時からは、「絵地図師」「散歩屋」というユニークな肩書きで全国狭しとご活躍中の高橋美江さんの講演会が行われました。高橋さんは、『善光寺界隈散策絵地図』を完成させたばかり。〝まちあるき〟の観点から見る観光や地域活性化への提言に、興味深そうに耳を傾けていました。また講演会の後は高橋さんや鷲澤市長を交えた懇親会がなごやかに行われました。

この日、長野市は季節外れの大雪となりましたが、多くの会員の皆さんにご参加いただき、盛会のうちに終了することができました。

全体懇談会は藤牧雄一郎専務理事の司会により進行。市川浩一郎理事長の挨拶に続き、各研究部会、特別委員会の部会長から各活動の現状ならびに今年度の活動内容について発表がありました。

■善光寺御開帳のご利益を期待しつつ明るい日々に

市川理事長

平素はNUPRIの活動にご理解、ご協力くださり、厚く御礼申し上げます。

昨秋来の不況はいまだ先行きに明るさが見えず、日本丸は沈没しそうな状況です。しかし、間もなく善光寺御開帳が始まる長野だけでも、なんとかそのご利益にあやかり、明るく活気ある地域づくりを進めていきたいものです。そのためにも、まちづくりを牽引する我々がまず明るくなくてはいけないと考えます。

09年度は、「スポーツを核とした地域活性化」をさらに進めていく所存です。先頃、WBC（ワールドベースボールクラシック）で優勝を果たした『サムライジャパン』の活躍は、スポーツがいかに我々を元気づけ、国民の一体感をはぐくむか、如実に教えてくれました。スポーツに取り組もうとする私たちにとって、大きな追い風となりそうですね。「AC長野パルセイロ」の全面支援、「長野パルセイロアスレチッククラブ」の支援をはじめ、今後取り組んでまいります数々の活動に、皆さんのご協力ならびにご支援をお願いするものです。

また「りんごの木オーナー制度」「わいがやサロン」等、NUPRIの顔となってきた事業に対しても、より多くの皆さんのご参加をお願いします。

■「AC長野パルセイロ」の全面支援について

スポーツ・街づくり研究部会　鷲澤部会長

スポーツによるまちづくりと、長野パルセイロのJFL・Jリーグ昇格を地域ぐるみで支援するため、NUPRIとして「ホームタウン長野推進協議会」に参加したことを、まずご報告します。青少年チケットを購入し、近隣小中学校へ配して、子どもたちの観戦を支援する予定です。

また篠ノ井駅～長野オリンピックスタジアム間の活性化を支援する「スポーツタウン篠ノ井」にも参画し、スポーツを核とした地域の「活性化」を探っていく考えです。

シーズン4年目を迎えた長野パルセイロですが、チーム力の強化に反し、メインスポンサーが契約満了で撤退するなど厳しい側面もあり、NUPRIとして増資実現を支援していく予定です、皆さんのご理解とご協力をお願いいたします。

■「NUPRI寄席」にご参加を

平成21年善光寺御開帳研究部会　室賀部会長

4月5日から5月31日まで、約2ヶ月にわたって行われる御開帳に際し、まちづくりの面から関わっていこうと検討してきた結果、5月23日に北野文芸座において「NUPRI寄席」実現のはこびとなりました。会員各位の社員さん、ご家族様にもお声掛けいただき、多くのお客様で会場を満席にしたいと考えております。

チケットは事務局で販売しておりますので、お早めにお申し込みください。

■どこよりも危機感を持って戦略的に

Strategy2014（ストラテジー・ニイマルイチヨン）

研究部会　夏目部会長

2014年の北陸新幹線延伸に向け、NUPRIとして何ができるか、今も模索の段階ですが、長野新幹線と駅前再開発による賑わいを想定する商工会議所や、広域の地域連携による観光施策を考える信州経済同友会とはことなる切り口で検討を進めております。

金沢ではかなり以前から競合地域を精査し、施策の構築に生かしているようですが、そのDVDを入手しております。長野の人間にとってはかなりショッキングな内容ですが、それに目をつぶるわけにはいきません。そこで近々にその映像の試写会を行い、JRからの説明なども交えた意見交換の場を設定する予定です。多くの皆さんにご参加いただき、危機感を共有して、前向きで戦略的な施策を講じていきたいと考えます。

■無農薬有機農法の研究とその展開について

新産業創出研究部会　竹内部会長

おかげさまで「りんごの木オーナー制度」が好調ですので、今後は無農薬有機農法による生産とオーナー制度を一元化する事業を検討していきたいと考えています。部会委員の塩沢研一さんが、すでに事業家として成功しておられ、いい参考事例となりますので、この機会にお話ししていただこうと思います。6月には視察体験会も計画していますので、ぜひご参加ください。

※続いて塩沢研一氏による事業の取組み活動内容の紹介が行われました。

■「食」をテーマに展開します

わいがやサロン　岩野座長

今年度の「わいがやサロン」は、昨今大きな注目を集めている「食」をテーマに、地域でさまざまな観点から「食」に取り組んでいる人を講師に招き、展開する予定です。NUPRI会員の皆さまからお預かりする貴重な会費を還元するのが目的ですから、どうぞ多くの皆さんのご参加を改めてお願いする次第です。

NUPRI講演会

まちの多面的構造を探る

～絵地図と散歩から見えてくるもの～

講師　高橋 美江 氏

「このまちには何もないんだ～」の何とは？

こんにちは。このたび善光寺のイラストマップを作りました高橋です。

まずこちら（左図参照）をご覧ください。私のまちあるきの考え方なのですが、本日は、皆さんにも一緒に考えていただこうと思っています。

？⇒！

まちを面白がる
⇓
○○を面白がる

講演冒頭、講師の板書によって提示された２つの課題。

頭を柔らかくし、多角的な視点を持って「？を！に変える作業」と「○○に入る文字を考える作業」が、この日の講演の主題となりました。

さて、今、２００以上の絵地図を制作しているとご紹介いただきましたが、東京都内を中心に、実際にそれ以上の地図を作ってきました。制作の打ち合わせにその地域へ行きますと、そこのご担当者や地元の方が口を揃えて「このまちには何もない」とおっしゃるんですね。この「何もない」ということを、皆さんに考えていただきたいのです。いったい「何」がないのでしょう。何と比較して「何もない」と思うのでしょう？

今、会場からお答えいただいたように、ほとんどの地域の皆さんが「別のまちなどと比べて有名な名所や旧跡がない」と思っているんですね。たとえば東京と比べて、人が集まるビルがない、東京ディズニーランドのような名所がない…ということですね。でも、それは逆に考えると「空気がある」とか「緑がある」とかいうことでもあるんです。皆さんには、それを感じ取っていただきたいのです。

では「観光」という言葉の語源はご存知でしょうか。今、お答えいただいた通り、中国の『国の光を観る』という言葉が語源です。さすが信州ですね、よくご存知です。

この「みる」という言葉、英語ではいくつもの単語で表現されます。「Look」は「動かないものを見る、意図して視線を向ける」、「See」は「見える」、「Watch」は「動くものをじっと見る、観察する」、ほかにも「凝視する」を示す「Gaze」、「診断するとか診る」を意味する「Consul」などがあります。漢字でも何通りかありますね。「見る」「観る」「診る」「看る」……いずれもニュアンスが違います。

「観光」は「その土地の光を観る」ということで「観」の字があてられている、つまり「Watch」ですね。ところが、バスや車でわっと移動し、通り一遍のものを訪ねてまわる昨今の観光は、「観」と表現される本来の観光ではありませんね。受動的に見ることしかしていないのではないかと思うわけです。

もっと自由に、頭を柔らかく、発想豊かに

私は、「まちを面白がる」ということを自分のまちあるきのテーマにしています。日本人はまじめで、頭が固いなぁと、いつも思います。通り一遍の上っ面だけを見るのでなく、まちの本当の姿を見て、地域を掘り起こすのが観光だろうと考えるわけです。そのためには頭が固くてはダメなんです。

そこで、頭を柔らかくするため、いくつか絵を見ていただきましょう。

ひとつの絵が何通りにも見えますね。これは「トリックアート」と呼ばれる、いわゆるだまし絵です。日本にも似たものがあります。「判じ絵」「判じ物」というもので、絵の中に洒落を利かせた笑いや発見を潜ませているのです。看板、歌舞伎役者の手ぬぐい、江戸時代に流行した「絵心経」と呼ばれる経本など、さまざま表現で意味を「可視化」しています。

また、橋を渡る時に、ぜひ気をつけて見ていただきたいのが、橋の両側に立つ「親柱」。ここに刻まれる橋名は、

必ず一方が仮名で、もう一方が漢字です。なぜでしょう。行きは誰もが読める仮名文字、帰りはそのまちを覚えるので漢字でも読めるということなのだそうです。

今まで、いろいろな絵や例を挙げてきましたが、これらを絵と思わず「まち」と思っていただきたいのです。先ほど、頭を柔らかくして視点を変えたら、一枚の絵の中にひとつのものだけが描かれているわけではなく、もうひとつの形や意味が見えてきましたね。まちも同じです。冒頭で、「うちのまちには何もない」というお話をしましたが、皆さんが「何」と考えている部分は「人が集まる名所」など光が当たる場所、つまり民俗学の言葉でいうところの「ハレ＝晴れやかな非日常」にあたります。でも、その両サイドには「暮らし」の部分、つまり「ケ＝日常」があるのです。長野で言えば善光寺さんは「ハレ」の部分ですね。その周辺の地域の皆さんの暮らしは「ケ」です。

私は、この「ケ」にこそ本質があると考えています。もちろん「ハレ」の部分はとても大事です。でもそれを支えているのは、地域の皆さんの暮らしだったり、日常だったりするわけです。今回の『善光寺界隈散策絵地図』の中にも、当然善光寺さんを入れました。そしてそれを支える「ケ」の部分も入れています。「ハレ」と「ケ」は重なりあったり、時と場合によっては入れ替わったりするものなのです。

小さい子どもがいるご家庭では、幼稚園の催事などがあると、後で写真の注文を取ることがよくありますね。うちの子が小さい時、私がいつも思ったのは、「なぜみんな自分の子が写った写真ばかりを買うのだろう、友達や先生の写真をなぜ買わないのだろう」ということでした。ビデオも、親御さんたちが自分の子ばかり撮影しているのが不思議でした。友達や先生を通して見えてくる自分の子の姿のほうが、ずっと面白かったりするものです。また、運動会やお遊戯の舞台などは「ハレ」の場ですね。でも親から見た子どもの本来の姿って、ぐずぐずご飯を食べているところだったり、ごろごろして小言を言われている姿だったりするんじゃないでしょうか。子どもさんを撮影する機会のある皆さんには、子どもの「ケ」を撮影しておくことをお勧めしたいと思います。

まちの「ケ」を探ってみよう

では、まちの「ケ」とは、具体的にどんなものを言うのでしょうか。私が撮影した写真から、まちの「ケ」を探ってみましょう。

まちあるきで大切なのは「モノの形と現象から意味を探る」ことだと、私は考えています。写っているモノの「形」や「現象」が何を意味しているのか、頭を柔らかくして考えてみましょう。

たとえば、80年前に建てられた浅草の馬肉の老舗店舗の座敷には、おめでたい松竹梅に加えて「桜」が彫られた欄間があります。「馬肉」を表す「桜」と木の「桜」を掛けたシャレですね。また、吉原の跡地を通る車道の真ん中には不思議な緑地帯があるのですが、これは、実は〝お歯黒ドブ〟を暗渠にした跡なのです。吉原とその外側との結界にあたる場所だったそうですが、それが今、ちょっと不思議な緑地帯として残っています。いずれも普通なら見過ごしてしまいますね。でも、「?」を「!」に変える作業を一つひとつ重ねていくと、まちの形や現象が何を意味し、私たちに伝えているものが見えてくるのです。

しかも、こうしたものは、地元の人々にとってはあまりに日常的な風景です。でも外から私のような者が行って「面白い」って騒ぐと、それに驚いて「なんだ、これってすごいものなのか」と、初めて価値に気づくんですね。まちづくりに外部の者が参加することの重要性は、ここにあります。地域の人々の〝気づき〟を誘発するのですね。

いろいろな発見がありますよ。たとえば、東京の交番はみんな人の顔、神田カトリック教会には十二単のマリア様、実に味な表情の稲荷狐……いずれも地元の皆さんは気づいていませんでした。こうして、「ケ」に目を留めることで、ほら、まちの多面的な構造が見えてきたでしょう。

絵地図づくりに見る「情報の選択」と「伝達の方法論」

以前、シリーズで携わっていた仕事で、職人さんを取材して文章とイラストで紹介するというものがありました。スダレや楊枝や風鈴の職人さんの仕事場へお邪魔するわけですが、最初の頃は、職人さんにどうやって作るのか、そのプロセスを事細かに聞いたものでした。でもある時点から、それって書いても面白くないということに気づいたのです。私自身が面白いと思ったことを書かなくては、読者だって面白いと思ってくれるはずがありません。スダレなら、材料となる植物「葦」が「悪し」をきらって「ヨシ」と呼ばれることとか、風鈴なら、西欧人が喜んで買って帰ってクリスマスツリーに飾ることだとか、実は、そんな周辺情報が興味深くて面白いんですね。

職人さんも、モノも、まちも、多面的多様性があって、いろいろな情報を持っているのです。その「何」を選択するかが大事です。その時、多くの人は「ハレ」にばかり目が向いてしまいます。でも先ほどから言っているよ

うに、「ケ」にこそ、本質が隠れていることを忘れてはいけません。

次に、その情報をどうやったら伝えられるか、つまり「伝達の方法論」が大事です。簡単に言えば、「何を＝Ｗｈａｔ」「どう＝Ｈｏｗ」伝えるかということですが、皆さん、Ｗｈａｔは一所懸命なさるんですが、Ｈｏｗはやらないんですね。

つい先日も、静岡の人から「静岡にはいいものがたくさんあるんですが、〝見せ下手〟なんです」というお話を聞いたばかりです。〝見せ下手〟つまり、どう伝えるかがよくわかっていないのですね。私の仕事は、まさにそれ。「どう伝えるかを考える」ことです。その方法のひとつが、このイラストマップです。

よく「イラストマップって、縮尺が適当なんでしょ」と言われますが、私の地図は正確です。見せやすくするために誤差の範囲で縮尺を変えることや、部分的に強調するために一部縮尺を変えることがありますが、それも含めて〝正確〟です。最も読み手の心理にかなう表現方法を選んで描いている、という点で〝正確〟と言えるのです。

縮尺が均等で正確だから「伝わる」とは限りません。もちろん、制作する上でベースとなる正確な地図は必要です。でも人々に発信する際に大切なのは、データとしての正確さより「受け手がイメージできる」ことだと私は考えています。

「ケ」の情報は足で集める

情報にも「ハレ」と「ケ」があります。

浅草の雷門には大きな提灯がかかっていますね。奉納者は「松下幸之助」と書かれています。ところが裏を見ると、「京都高橋提灯株式会社」と書いてあります。東京のハレの場のハレの提灯が、なぜ京都から?と思いませんか。京都高橋提灯店に電話したところ、「松下幸之助はんが京都にお住まいで、近くの提灯屋に発注した…ということになっている」との答えでした。そこまでなら、まあ納得です。ところが築地組合が奉納した宝蔵門の大提灯も、新橋芸妓組合が奉納した本堂の大提灯も、みんな「京都高橋提灯店」製です。疑問に思って確認してみると「東京の提灯屋はんでは、こんな大きな提灯はでけしまへん」って言うんですね。驚きでした。

しかし、どうも納得できなくて浅草の提灯店に聞いてみたんですね。答えは簡単。「入札が安かった」というのです。でもそれだけではありませんでした。「京都の提灯は部品の一つひとつがていねいだ」というのです。そこで初めて納得がいきました。江戸のモノはデザインがシャープで粋、京のものは繊細で装飾的…そんな傾向が、この提灯にも如実に表れていたんですね。まさに「?」を「!」にしたわけです。

こうした「ケ」の情報を掘り当てるのは、とても大変な作業です。でも、その作業を通じて、自分の気持ちが動かされた情報には、読者も心を動かしてくれるものです。実際に現地を歩いたり、地元の人に話を聞いたり、実体験を通した情報だからこそ、読む人にも伝わるのです。

地図とまちづくり

最近は、私も人から取材を受ける機会が多くなりました。取材を専門にする方々の中には「インターネットで調べればたいていのことがわかる」とおっしゃって、あまり動かれない方もいるようです。でもそれは真のプロではないと、私は思います。「足」を使って情報を掘り起こし、手間をかけて伝える方法を練ることで、情報は初めて人に伝わるものになるのです。

今、私は小布施町の農村部の地図を作っています。今まで2百数十点制作してきた地図の中で、最も大変だと感じています。なぜなら、「ハレ」の部分が皆無に近いのです。皆さんご存知の通り、小布施のまちの中にはスポットライトが当たっているところがたくさんあります。けれど農村部にはありません。全部が「ケ」ですから、ひたすら歩いて、話を聞いて、コツコツ情報を集めるしかありません。結局、取材に1年を費やしました。でもそのおかげで、地元の史誌に出ていない情報も発見できました。地域の歴史、背景、根っことなるさまざまな情報を掘り起こし、表現することによって、その地域の人々にとって役に立つ新しい情報として、地図を生み出すことができるのだと、私自身が改めて発見する機会となったのです。

地図は、作るプロセスも大切ですが、作り終わった後、どう使うかも非常に大事です。私が作った地図が、皆さんの役に立ってくれたら、とてもうれしく思います。

最後に、冒頭で書いた「まちを面白がる⇒○○を面白がる　の○○に、皆さんはどんな言葉を入れるでしょうか。ここに入る言葉は、ひとそれぞれ何でもかまわないと思うのです。要は「目線を変える」こと。頭を柔らかくし、多面的に見ることで、まちが変わって見えたなら、それは「皆さんが変わった」ことにほかなりません。「変わった自分」を大いに面白がってください。そうすれば、もっともっといろいろなものが見えてくるはずです。

講師プロフィール

高橋（たかはし） 美江（みえ）　氏

1953（昭和28）年、東京都生まれ

武蔵野美術大学卒業後、デザイナー、イラストレーターとして仕事を続ける。現在は「絵地図師」「散歩屋」として新境地を開き、全国200箇所以上の絵地図を手がける。今御開帳を前に『善光寺界隈散策絵地図』を制作した。

高橋デザイン室主宰、ＮＨＫ文化センターまち歩き講座講師。著書に『東京下町小さな旅』

記載内容は約１時間30分の講演をＮＵＰＲＩ事務局が抜粋・要約したものです。

ご案内

善光寺御開帳に合わせた特別企画

NUPRI寄席を開催します

お早めのお申し込みを！

全体懇談会でも話題にのぼったように、平成21年善光寺御開帳研究部会が中心となって行う事業のひとつとして、御開帳終盤の5月23日(土)、北野文芸座で「NUPRI寄席」を開催します。

御開帳にちなみ、善光寺淵之坊副住職・若麻績享則さんのお話で、善光寺の歴史や御開帳に関する知識を増やしていただき、その後、三遊亭小遊三師匠と、弟子の真打・三遊亭遊史郎さんの落語で、思う存分笑っていただこうという趣向です。遊史郎さんの演目は、善光寺と石川五右衛門がテーマの有名な古典落語『お血脈（けちみゃく）』。小遊三師匠の演目は乞うご期待です。

北野文芸座は席数４００弱。お早めのお申し込みをお待ちしています。事務局へご一報ください。

～祈りと賑わい～　善光寺御開帳　NUPRI寄席

日　時　2009年5月23日（土）　午後4時45分開場　午後5時30分開演
会　場　北野文芸座
入場料　全席指定 4,000円（税込み）
◎絵地図師 高橋美江さん制作の【善光寺界隈散策絵地図】をもれなく進呈
お問い合わせ　NUPRI事務局　TEL026-235-7911

大好評!!
「ふじ」・「信濃三兄弟」
りんごの木オーナー募集中！

「ふじ」……A…60Kg／25,000円
　　B…30Kg／15,000円
「信濃三兄弟」…3種類（秋映・シナノスイート・シナノゴールド）、
　　20Kgで5,500円（消費税込）

- 三品種それぞれに甘み・酸味が微妙に異なり、収穫・出荷が「ふじ」より早い10月に行われるのが特徴です。
- 収穫場所は従来のオーナーの木の農園より北側の丘陵地（写真参照）で北信五岳も眺望できるところです。
- お申し込み・お問い合わせは事務局へ。